

健康教室

肺炎とは —肺炎球菌ワクチンの必要性—

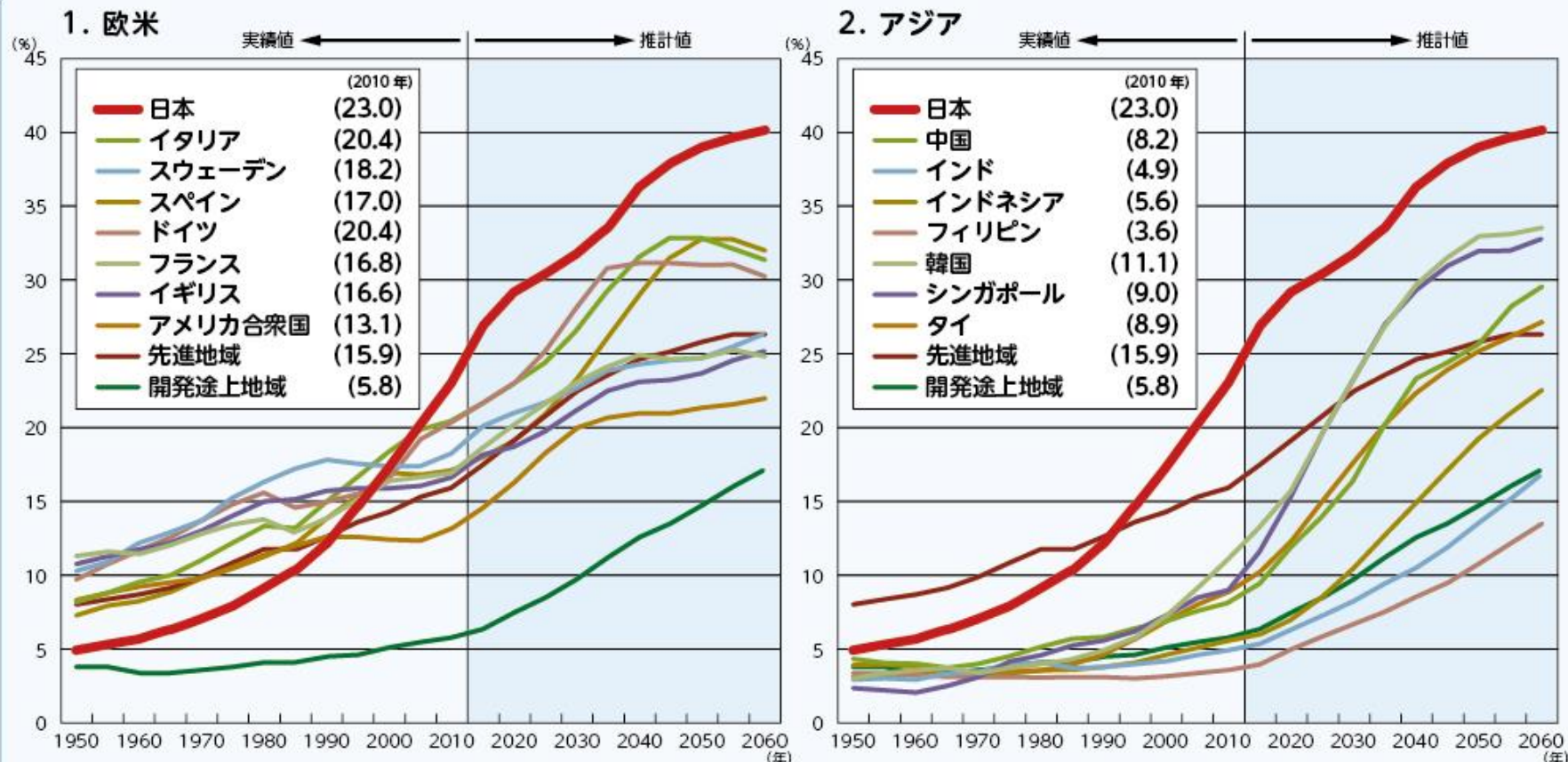
川口メディカルクリニック 川口光彦



日本は世界で一番の高齢化社会



●世界の高齢化率の推移



[世界の高齢化率の推移(調査(内閣府)) http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2013/zenben/s1_1_5_02.html より作成]

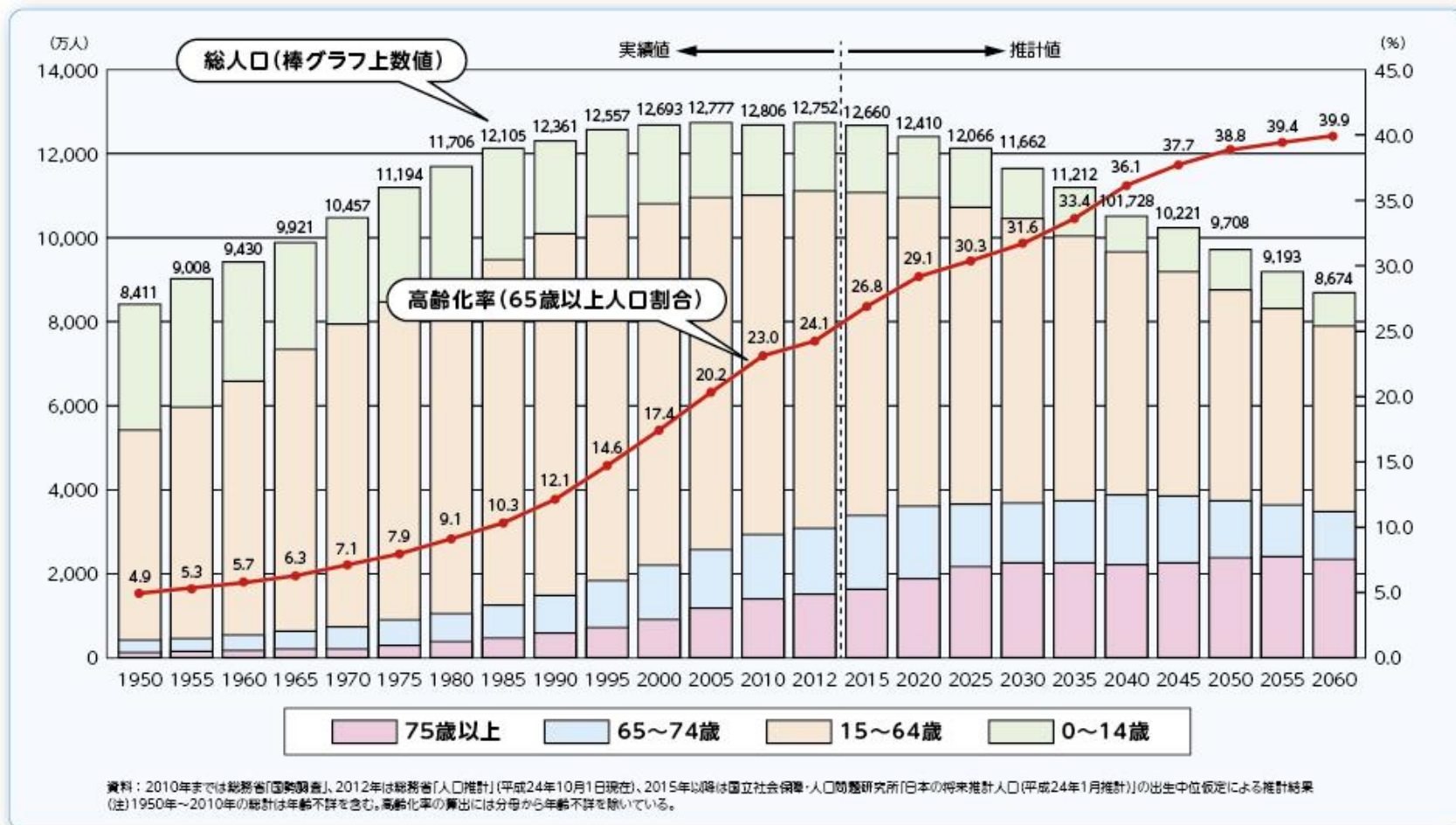
先進諸国の高齢化率を比較してみると、1980年代までは下位でしたが、平成17(2005)年には最も高い水準となり、世界のどの国もこれまで経験したことの無い高齢社会を迎えています。



増える65歳以上の高齢者人口



●日本の高齢化の推移



【高齢化の推移と将来推計】調査(内閣府) http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2013/zenbun/s1_1_1_02.html より作成

日本の高齢者人口は今後、「団塊の世代」が65歳以上となる平成27(2015)年には3,395万人となり、「団塊の世代」が75歳以上となる37(2025)年には3,657万人に達すると見込まれています。

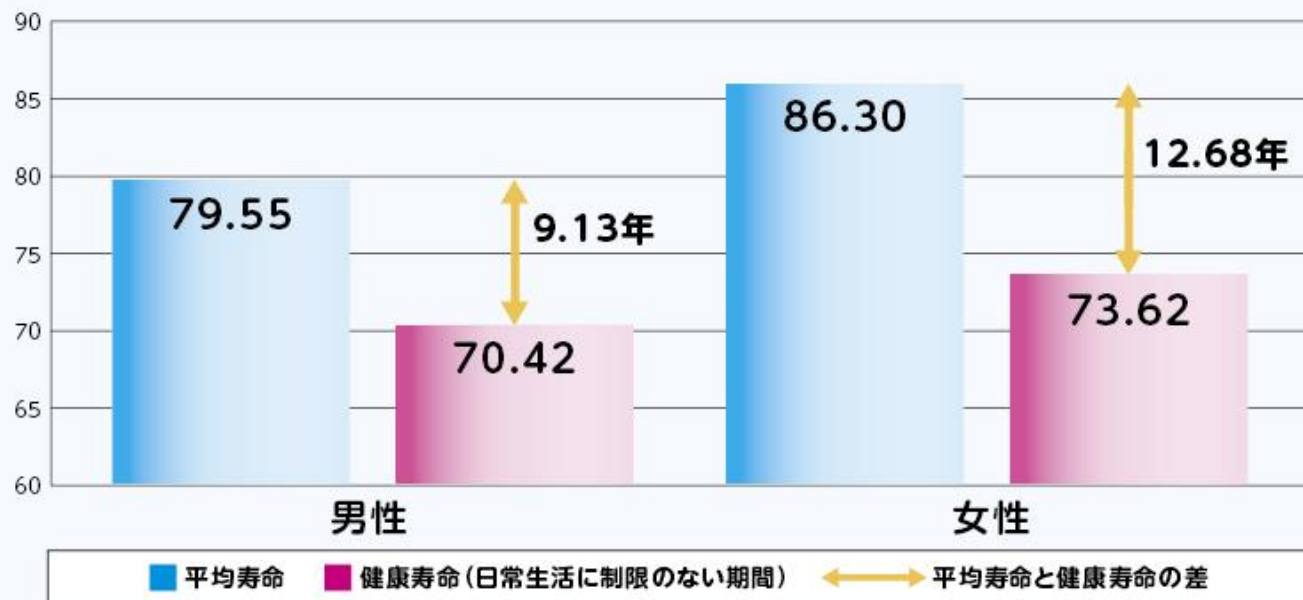


平均寿命と健康寿命



●高齢化が進んでいる今、日本でも世界でも「健康寿命をいかに延ばすか」が、大事な課題となっています。

●平均寿命と健康寿命の差



資料：平均寿命(平成22年)は、厚生労働省「平成22年完全生命表」 健康寿命(平成22年)は、厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」
【出典】厚生科学審議会地域保健健康増進政策部会・次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会
「健康日本21(第二次)の推進に関する参考資料」p25

- 健康寿命とは、介護などを必要とせず、健康でいられる期間のことです。
- 厚生労働省の発表(平成22年)によると、日本人の健康寿命は、
男性で70.42歳、女性で73.62歳です。
- 平均寿命との差は、それぞれ9.13年、12.68年もあります。





国民の健康寿命が延伸する社会に向けた 予防・健康管理にかかわる主な取り組み



- 国は「国民の健康寿命が延伸する社会」に向けた予防・健康管理にかかわる主な取り組みのひとつとして、「肺炎予防」を推進しています。

高齢者の肺炎予防推進

華房先生

川口

①誤嚥性肺炎の予防に向けた口腔ケアの推進

②成人用肺炎球菌ワクチン接種の推進

介護・医療情報の「見える化」等を通じた
介護予防などの更なる推進

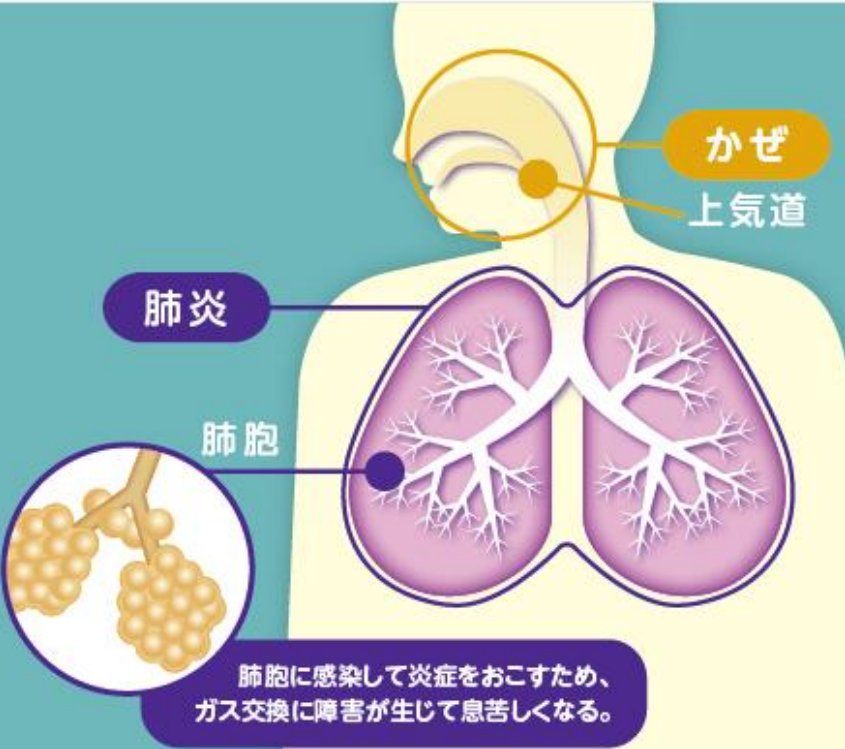
認知症早期支援体制の強化

生涯現役社会の実現に向けた環境整備等



かぜと肺炎のちがい

● かぜと肺炎は、ちがいます。



かぜ
上気道

肺炎

肺胞

肺胞に感染して炎症をおこすため、ガス交換に障害が生じて息苦しくなる。

	症状	熱	期間
かぜ	鼻水 くしゃみ せき のどの痛み	38℃ くらい まで	数日～ 1週間 くらい
肺炎	胸にするどい痛み 熱 悪寒 息切れ せき 全身のだるさ 黄色～緑色や鉄さび色のたん 顔やくちびるが紫色	38℃ 以上の 高熱	長く続く



かぜと肺炎のちがい

- 肺炎の症状は、気づきにくいことがあります。

肺炎だと気づきにくい症状

苦しくて息が浅くなる

呼吸が速い

ぐったりする

食欲がない



3~4日続いたら要注意!



肺炎と市中肺炎

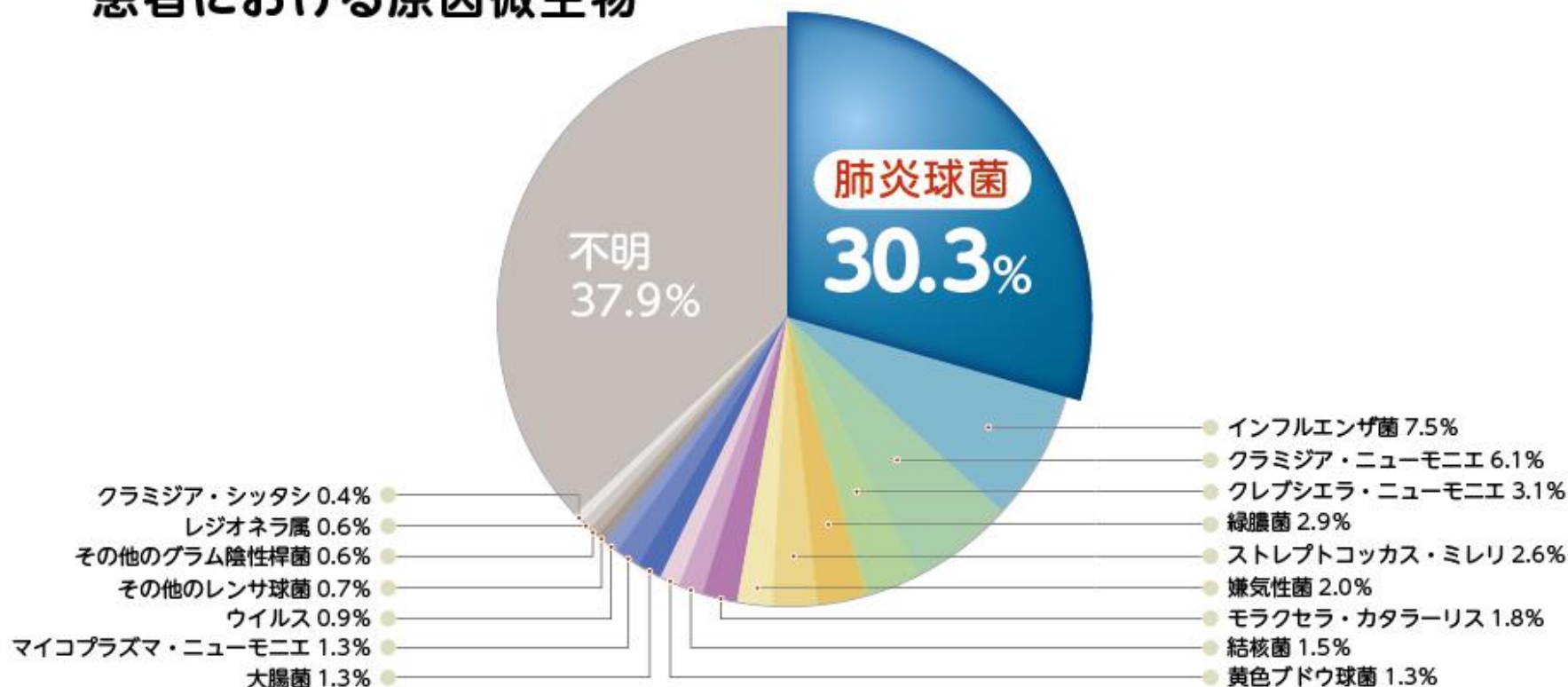
●肺炎の分類





肺炎と市中肺炎

●65歳以上の市中肺炎で入院した患者における原因微生物



対象：倉敷中央病院において、1994年～2001年の間に入院した

65歳以上の市中肺炎患者 544例

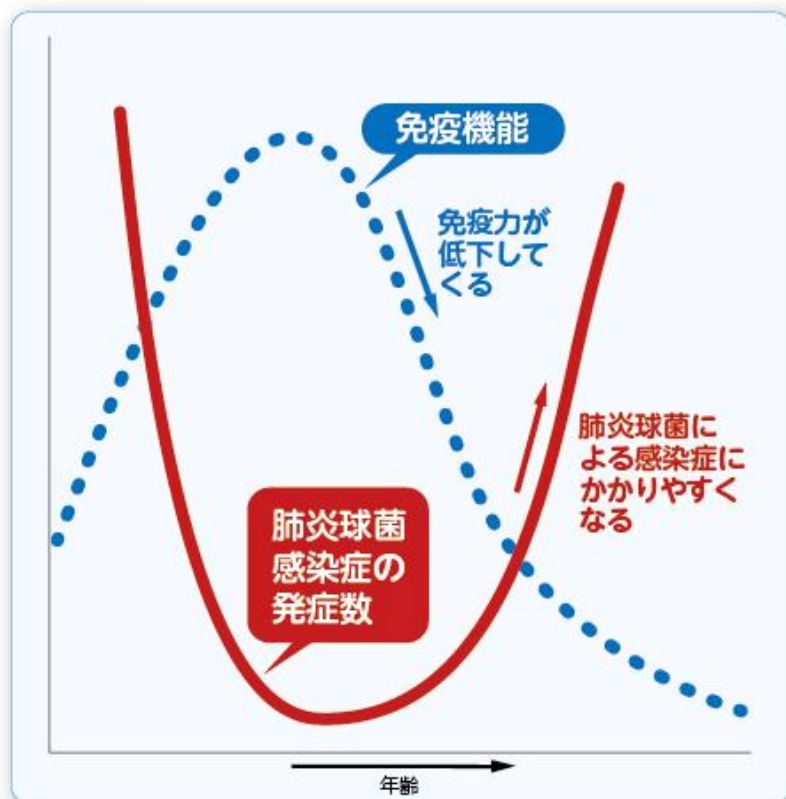
方法：細菌学的試験により原因微生物を特定した。

石田 直：Infection Control 14(7): 645, 2005より作図



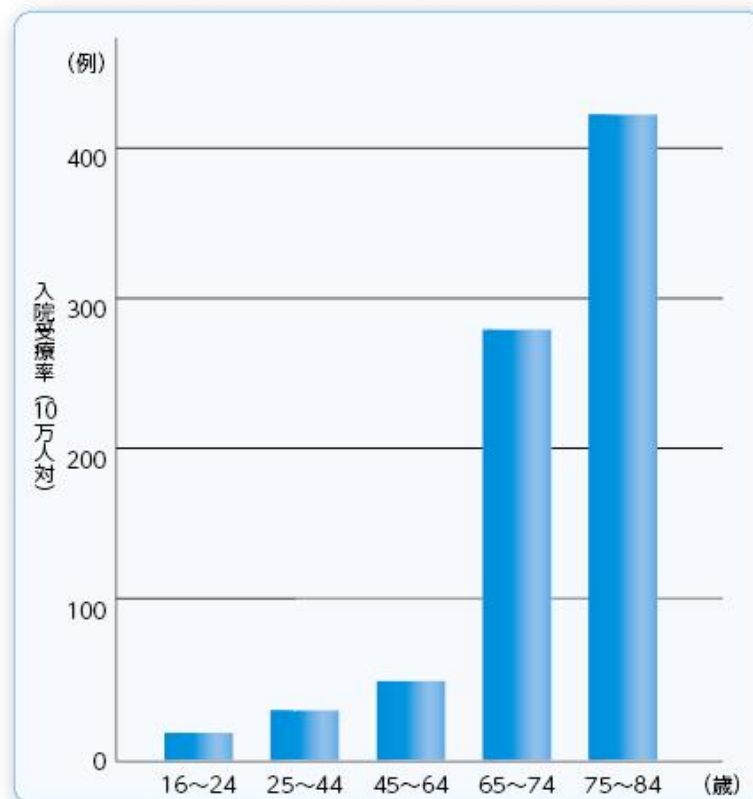
免疫機能と感染症のかかりやすさ

●年齢による免疫機能と肺炎球菌による感染症リスクの相関



(イメージ図)

●65歳を過ぎると、市中肺炎(通常の社会生活を送っていてもかかる肺炎)で入院して治療を受ける人がふえてきます。



対象：2008年9月～2010年9月の間、イギリスの2か所の大規模な大学病院に入院した市中肺炎患者920例
方法：2年間のプロスペクティブな観察的コホート研究における肺炎球菌による入院患者数から算出した。

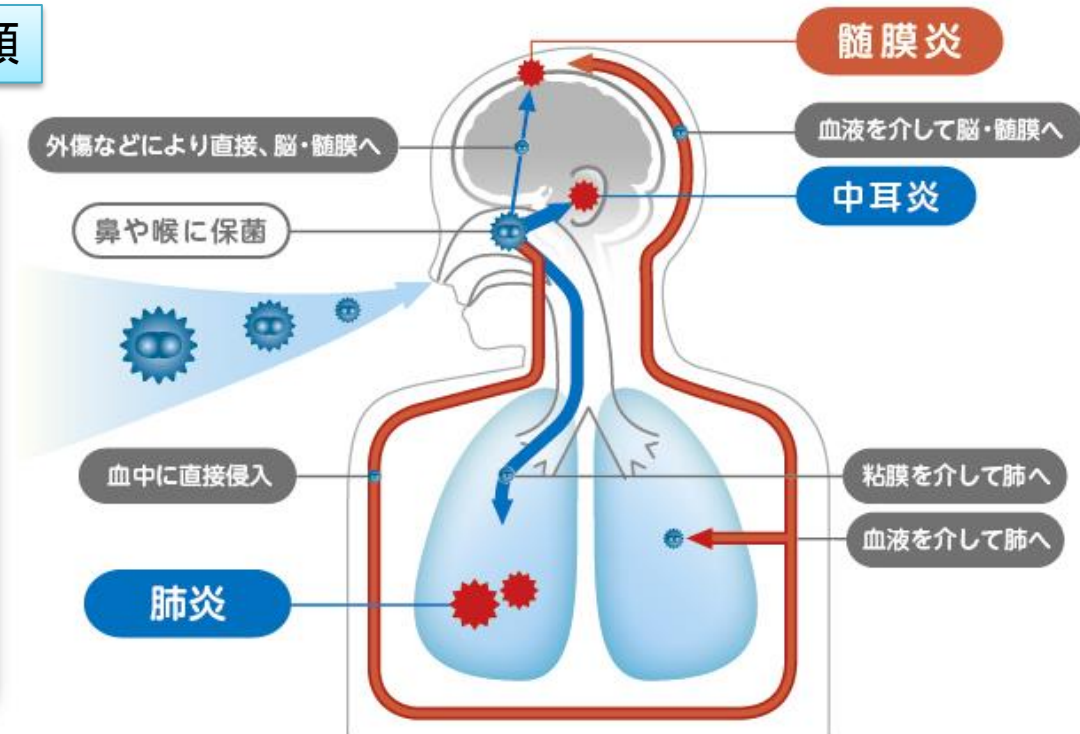
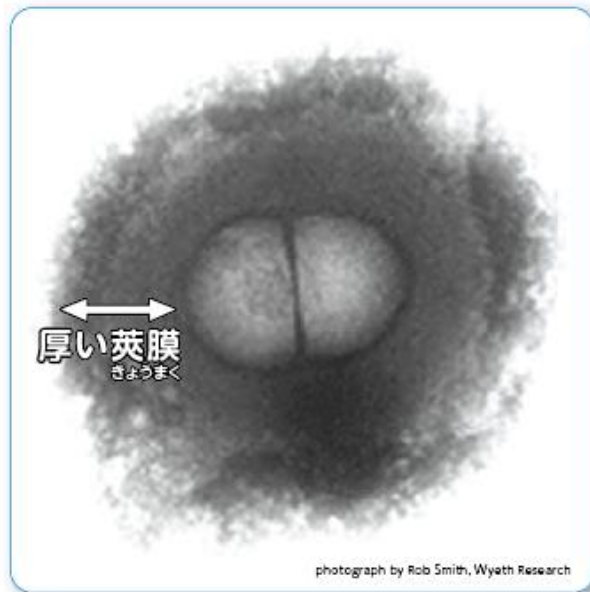
Bewick, T. et al. : Thorax 67 (6) : 540, 2012 より作図



肺炎球菌と感染症

肺炎球菌

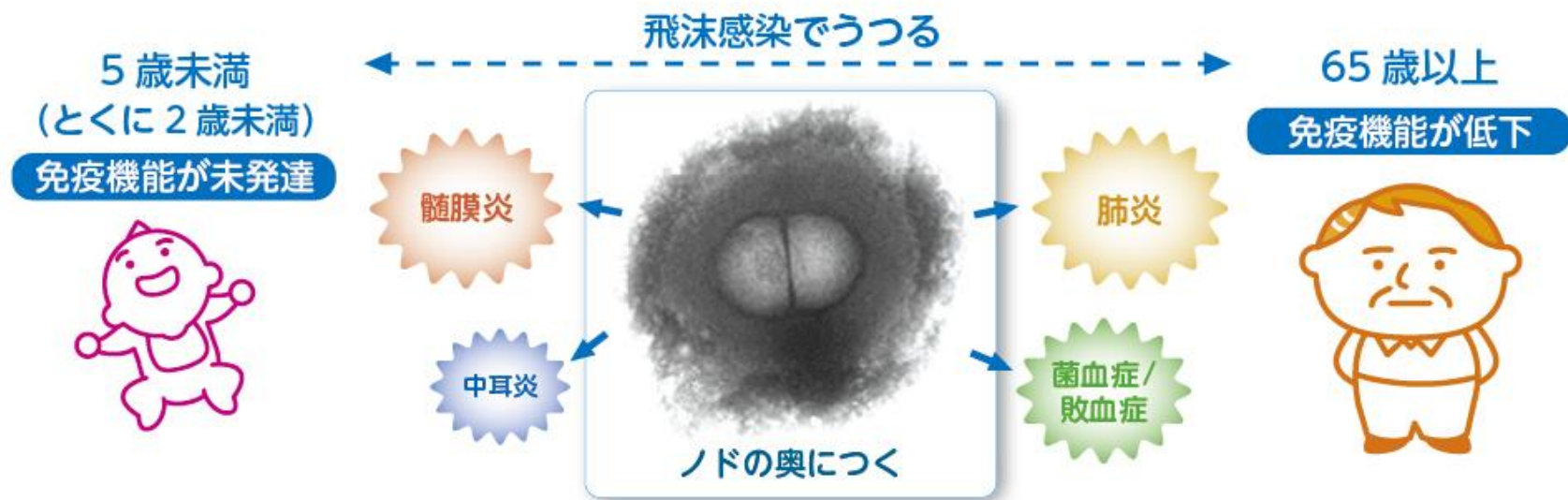
90種類



- 肺炎球菌は、市中感染症（通常の社会生活を送っていてもかかる感染症）の主要な原因菌です。
- 肺炎球菌は、莢膜（きょうまく）とよばれる厚い膜でおおわれているため、からだのもっている免疫機能がはたらきにくい細菌です。



肺炎球菌と感染症

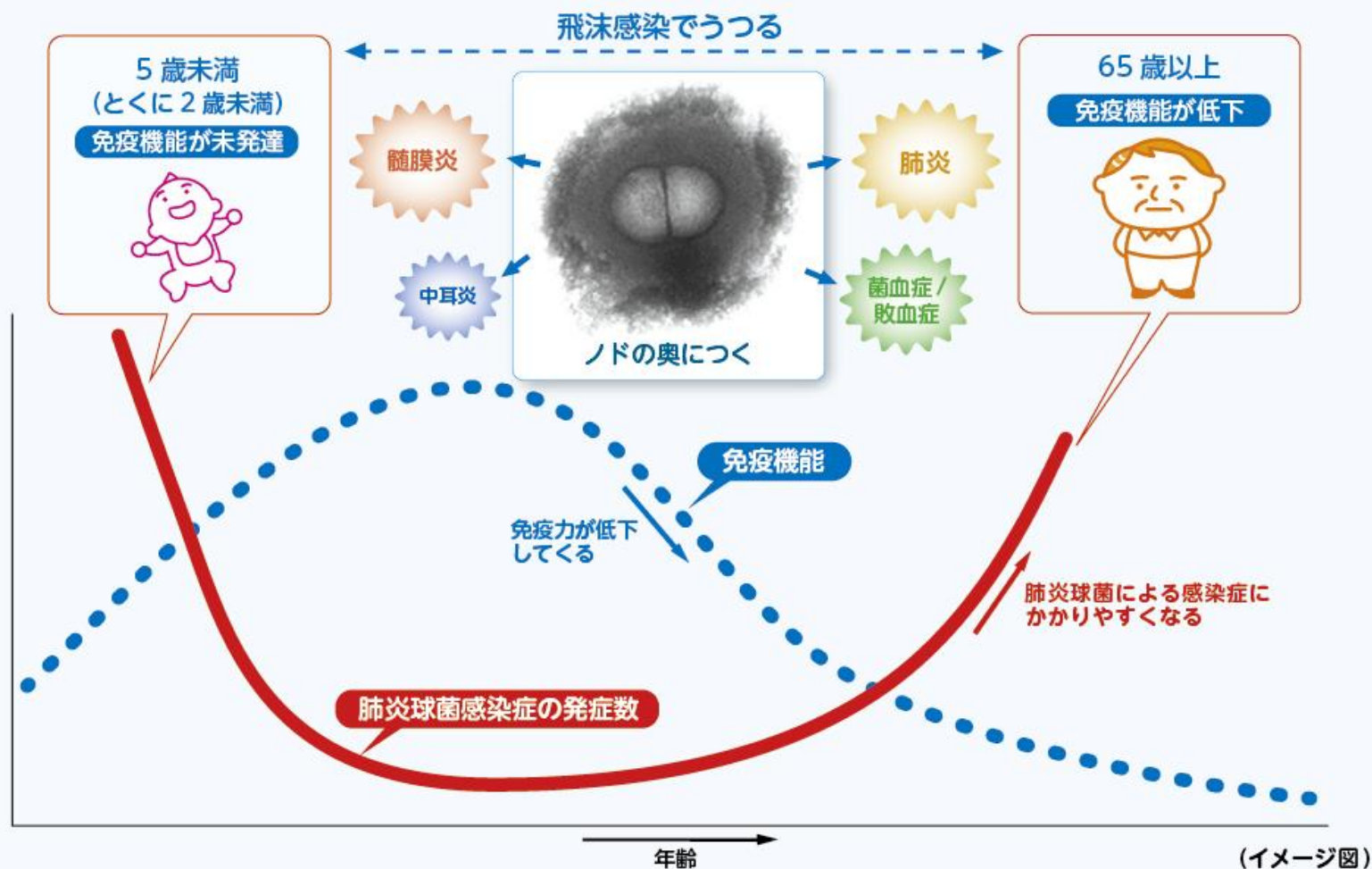


- 免疫機能が未発達の乳幼児(5歳未満、とくに2歳未満)や、免疫機能の低下してくる高齢者(65歳以上)が、肺炎球菌による感染症にかかりやすいといわれます。
- 肺炎球菌は、人の鼻やノドの奥につきやすい細菌の1つで、飛沫感染で人から人にうつります。
- 肺炎、髄膜炎、菌血症、中耳炎などの原因になります。



肺炎球菌感染症のリスクが高い方

●加齢とともに、免疫力が落ちてくると、感染リスクが高まります。





肺炎球菌感染症のリスクファクター

年齢によるもの

●5歳未満(とくに2歳未満)

●65歳以上

以下のような方々

●糖尿病、心疾患、呼吸器疾患などの慢性疾患の方

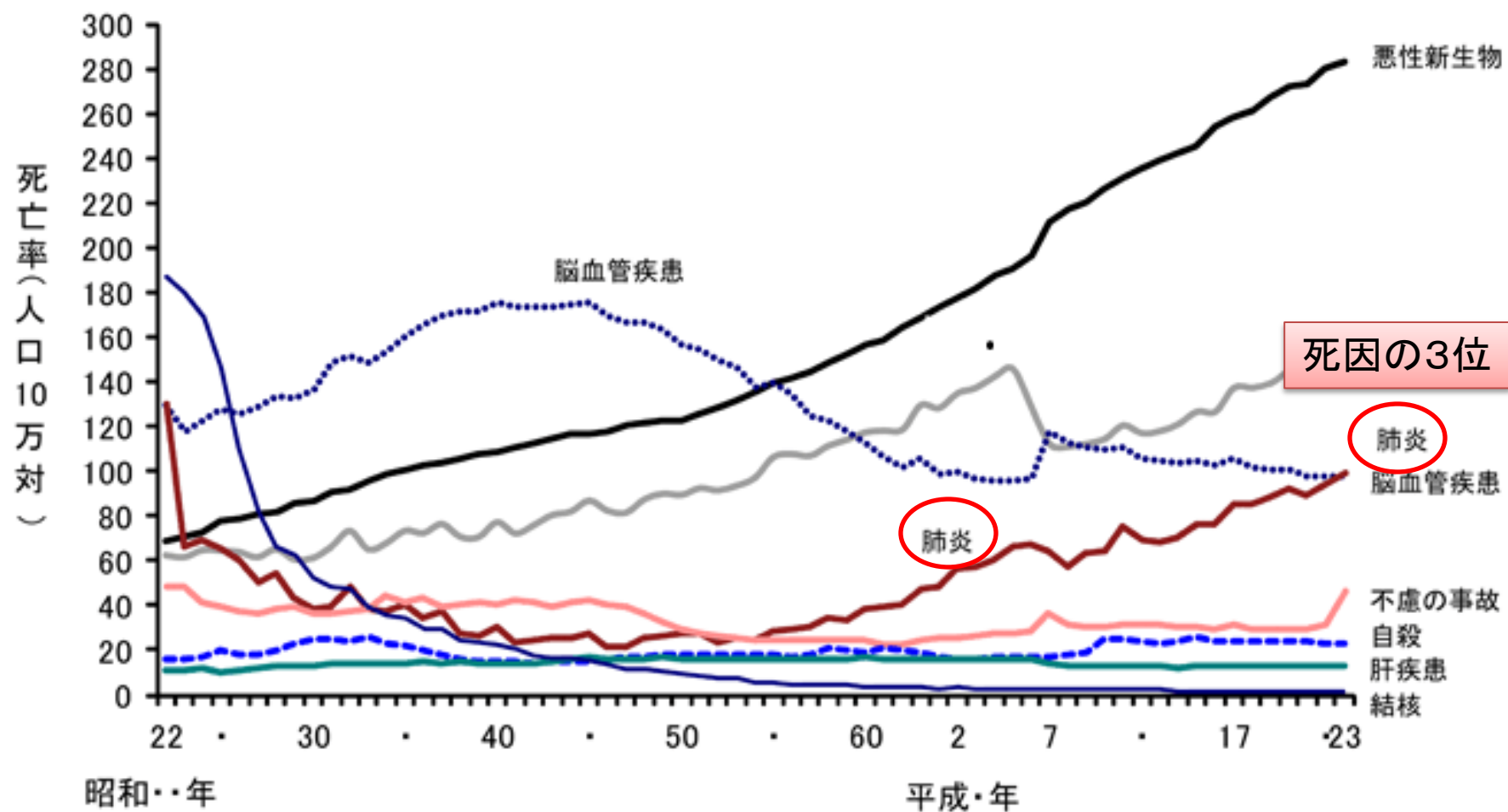
●病気の治療中などで免疫抑制状態にあり、免疫力が低下している方

●脾臓を摘出された方

●たばこを吸っている方

など

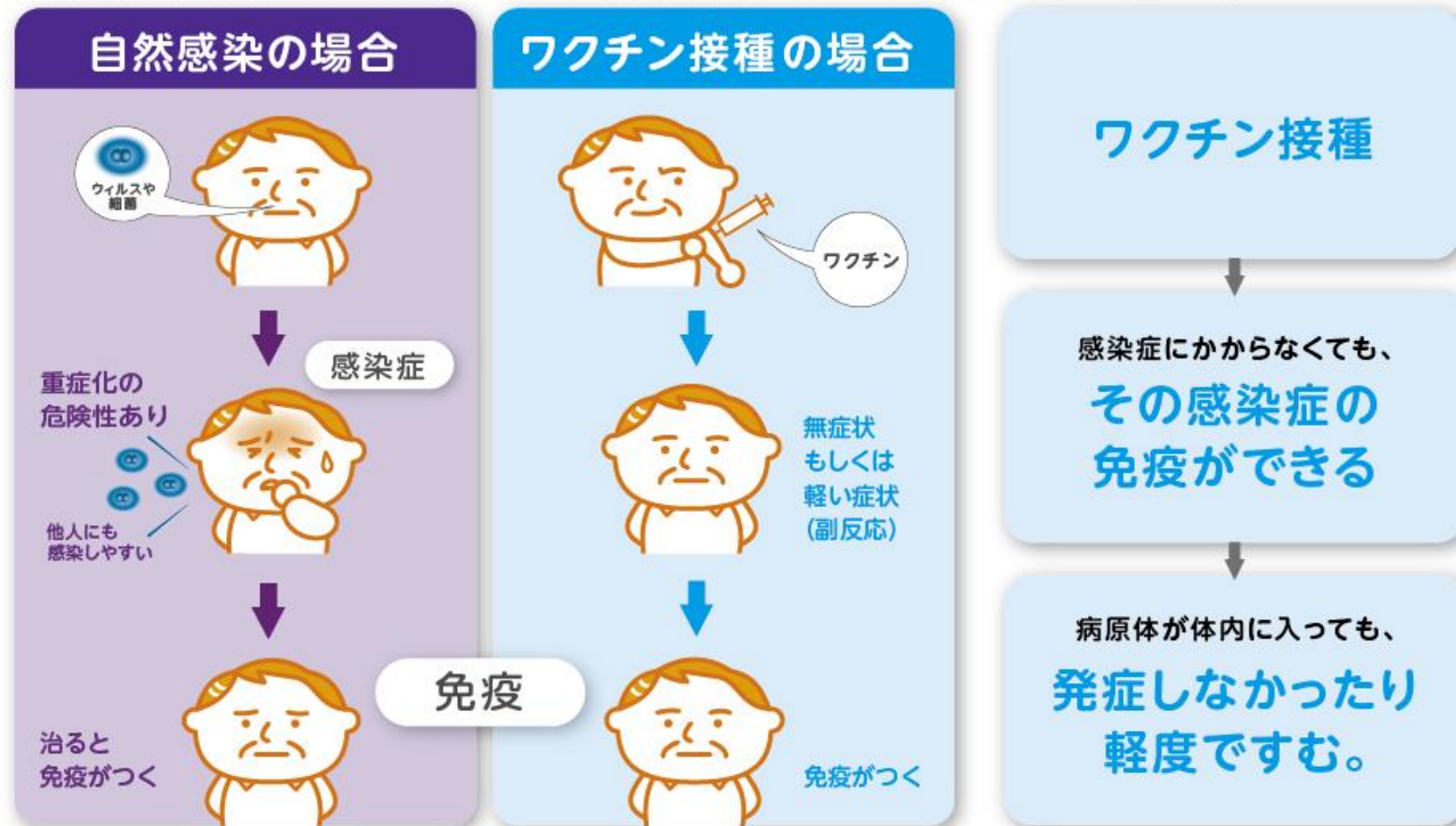






ワクチンとは

- 感染症にかかると、その病原体に関する抵抗力ができます。この原理を応用し、病原体の毒性を弱めたり、無毒化したものがワクチンです。
- 定期接種、任意接種にかかわらず、ワクチンで防げる病気は、ワクチンで予防することが重要です。



肺炎球菌ワクチン

商品名	ニューモバックスNP[23価]	プレベナー13[13価]
	MSD	ファイザー
発売年	1988年	2013年
分類	肺炎球菌多糖体ワクチン	肺炎球菌結合型ワクチン
有効成分 (血清型)	肺炎球菌莢膜ポリサッカライド (1,2,3,4,5,6B,7F,8,9N,9V,10A,11A,12F, 14,15B,17F,18C,19A,19F,20,22F,23F,33F) * 赤色は13価のプレベナーと同一の株	肺炎球菌莢膜ポリサッカライド —無毒性変異ジフテリア毒素— (1,3,4,5,6A,6B,7F,9V,14,18C,19A,19F,23F) * 青色は7価のプレベナーに追加になった株
接種対象者	2歳以上(注) (肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険が高いもの)	65歳以上の高齢者 2ヶ月齢以上6歳未満の間の者
用法・用量	1回0.5ml 筋注または皮下注:5年ごと再接種	高齢者: 1回0.5ml 筋注(生涯) 小児: 初回免疫 1回0.5mlずつ 3回皮下注 追加免疫 1回0.5ml 1回皮下注
価格	¥7000円(初めての定期接種は割引有、岡山市3610円)	¥1,2000円
予防接種	1、定期接種(年齢制限あり) H26~H28年度 65歳 70歳 75歳 80歳 85歳 90歳 95歳 100歳 2、他年齢は任意接種	任意接種
	①既にニューモバックスを接種している場合は、定期接種の対象外 ②プレベナー13を任意接種しても、ニューモバックスを定期接種できる	
免疫系	B細胞依存型	B細胞依存型+T細胞依存型
免疫記憶	なし (5年に1度の接種)	あり 終生免疫

